

# 映画で描かれた ヒロシマとナガサキ、 そして被爆者

◎1945年8月6日と9日、広島と長崎に投下された原子爆弾は、その後の世界の歴史のみならず、わたしたちの表現の歴史も変えていきました。

◎小説や詩がまず原爆を描き始めます。続いて絵画や写真、音楽や演劇が人類がいままで経験したことがない劫火の悲劇とそのあとの人々の長い苦しみを70年間にわたって描き続けてきています。

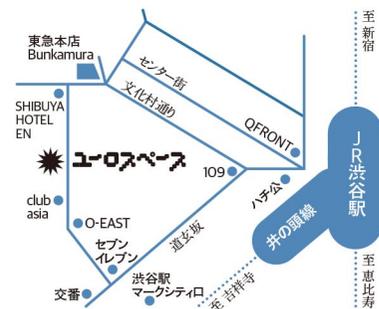
◎特集上映「原爆と銀幕 止まった時計と動き始めた映画表現」は、いままで映画が原爆をどのように描いてきたかに注目します。

◎敗戦後まもなく、当時のメジャーだった五社の撮影所で製作された、原爆のために若い男女の未来が壊されていく青春映画。文学作品を原作に独立プロダクションが監督の強い個性とともに作りあげた、1980年以降の家族を中心に据えた傑作。映画館では観ることができなかった、原爆投下直後に投下された日本人と投下したとアメリカ人がそれぞれ撮影した貴重な記録フィルムから生まれたドキュメンタリー作品。海外にまで展示運動

が広まった「原爆の図」の丸木位里と俊の世界。アニメーションは短い時間のなかに凝縮した緊張感でヒロシマとナガサキに生きた人々を描きます。強烈な描写で多くの子どもたちの心に残ったマンガを劇場版アニメと実写ドラマ化した『はだしのゲン』。学校や地域のホールで上映されつづけてきた非劇場の映画。

◎マルグリット・デュラス、井伏鱒二、井上ひさし、井上光晴、松山みよ子、永井隆の原爆をテーマにした文学作品を映画監督はどのように描いていったかにもご注目ください。

◎特集上映「原爆と銀幕 止まった時計と動き始めた映画表現」は時代の移り変わりとともに進化した表現と変わらない思いを考えます。



渋谷 Bunkamura 前交差点左折  
**ユーロスペース**  
EUROSPACE  
Tel03-3461-0211  
www.eurospace.co.jp



【入場料金】  
当日一般=1,400円  
大学生・専門学校生=1,200円  
会員・シニア=1,100円  
高校生=800円  
中学生=500円  
◆リピーター割引がございます。  
半券ご提示で2回目から一般=1,200円、  
大学生・専門学校生=1,100円でご覧いただけます。  
◆8月1日(月)、8月6日(土)、8月9日(火)  
は1,000円均一でご覧いただけます。  
◆各回入替制・整理番号順入場・自由席・  
開場はそれぞれ上映時間の10分前です。  
◆やむをえない事情により作品、上映素材、および上映時間に変更になる場合がございます。  
◆製作から長い年月が経っているため、お見苦しい箇所やお聞き苦しい箇所がございます。  
◆トークショーを予定しております。詳しくはユーロスペース劇場ホームページをご覧ください。

プログラム	11:00	13:30	16:00	18:30
7月30日(土)	愛と死の記録	TOMORROW 明日	二十四時間の情事	黒い雨
7月31日(日)	その夜は忘れない	純愛物語	父と暮せば	この子を残して
8月1日(月)	さくら隊散る	愛と死の記録	この子を残して	純愛物語
8月2日(火)	二十四時間の情事	さくら隊散る	愛と死の記録	その夜は忘れない
8月3日(水)	この子を残して	ドキュメンタリー集	黒い雨	愛と死の記録
8月4日(木)	純愛物語	ひろしま	短篇アニメーション集 [15:50より上映]	はだしのゲン(アニメ) [17:30より上映]
8月5日(金)	TOMORROW 明日	黒い雨	父と暮せば	さくら隊散る
8月6日(土)	黒い雨	鏡の女たち◆	ひろしま	はだしのゲン(アニメ)
8月7日(日)	はだしのゲン(ドラマ)	ひろしま	短篇アニメーション集	ドキュメンタリー集
8月8日(月)	ひろしま	はだしのゲン(ドラマ)	はだしのゲン(アニメ)	ふたりのイーダ
8月9日(火)	H story	この子を残して	TOMORROW 明日	父と暮せば
8月10日(水)	父と暮せば	さくら隊散る	H story	鏡の女たち
8月11日(木)	ふたりのイーダ	はだしのゲン(ドラマ)	二十四時間の情事	H story
8月12日(金)	鏡の女たち	二十四時間の情事	ドキュメンタリー集	TOMORROW 明日

〈ドキュメンタリー集〉は『原爆の図』、『原爆の圖』、『ヒロシマ・原爆の記録』、『予言』の順番で上映いたします。  
〈短篇アニメーション集〉は『ながさきの子うま』、『おこりじぞう』、『ピカドン』の順番で上映いたします。  
◆上映終了後に吉田喜重監督のトークショーがございます。

## 公開10周年記念 新作の短編が初公開! 『ミリキタニの猫(特別篇)』

2016年8月27日(土)公開 配給:湖畔三丁目  
『ミリキタニの猫』監督:リンダ・ハッテンドーフ/2006年/74分  
“ミリキタニ”ってなに?  
世界各地の映画祭で反響を呼んだドキュメンタリーが帰ってくる!  
『ミリキタニの記憶』監督:マサ/2016年/21分  
初公開の新作は、ミリキタニの「過去」をめぐる旅。  
ヒロシマと911のニューヨークが結びつく驚きの人生。

## 昭和20年、広島・呉。私はここで、生きている。 『この世界の片隅に』

原作:この史代×監督:片淵須直  
2016年秋公開  
©この史代・双葉社/『この世界の片隅に』制作委員会  
第二次世界大戦中の広島・呉を舞台に激化していく世の中でもなお、  
日々の暮らしを大切に、前を向いて生きている女性・すずを描く傑作アニメーション。



2016年7月30日(土) → 8月12日(金)

# ユーロスペース

EUROSPACE  
特集上映

【主催】特集上映「原爆と銀幕」上映委員会  
【上映協力】アスミックエース 今村プロダクション KADOKAWA  
ザジフィルムズ 松竹 スタジオ・ロータス 近代映画協会  
現代映画社 原爆の図 丸木美術館 翼プロダクション  
東京国立近代美術館フィルムセンター 東京テアトル  
独立プロ名画保存会 日活 日映映像 パル企画  
平和博物館を創る会 北星映画  
【企画協力】コミュニティシネマセンター  
シネ・ヌーヴォー 名古屋シネマテーク  
日本大学芸術学部映画学科映像表現・理論コース  
被爆者の声をうけつづける映画祭実行委員会  
広島市映像文化ライブラリー  
【助成】芸術文化振興基金助成事業  
【宣伝】スリーピン  
【デザイン】鈴木一誌+桜井雄一郎

# 原爆と銀幕

- 純愛物語
- その夜は忘れない
- 愛と死の記録
- この子を残して
- ひろしま
- 二十四時間の情事
- TOMORROW 明日
- さくら隊散る
- 黒い雨
- H story
- 鏡の女たち
- 父と暮せば
- はだしのゲン(1976)
- はだしのゲン(1983)
- ふたりのイーダ
- ヒロシマ・原爆の記録
- 予言
- 原爆の図
- 原爆の圖
- ピカドン
- おこりじぞう
- ながさきの子うま

止まった時計と動き始めた映画表現



# 原爆と銀幕

## 純愛物語

133分・35mm・カラー・1957年
国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム
監督 今井正
脚本 水木洋子
撮影 中尾駿一郎
照明 元持秀雄
美術 進藤誠吾
録音 岩田廣一
音楽 大木正夫
編集 長沢薫樹
東映東京撮影所作品
出演 江原真二郎 中原ひとみ 岡田英次 木村功 東野英治郎 田中邦衛

◎原爆投下から12年後、広島で被爆した少女と身寄りのない少年が必死に生きる物語。中原ひとみの鼻から流れる血の赤に被爆者の恐怖が演出される。水木洋子は新聞に載った原爆関係の膨大な記事を集めて脚本づくりに臨んだ。冒頭のクレジットの背景に丸木位里・後の「原爆の図」が使用され、交響曲「ヒロシマ」を発表した作曲家、大木正夫を起用するなど、東映の本作に賭ける意気込みが感じられる作品となった。本作の高い評価は後にテレビやラジオでドラマにもなった。

## その夜は忘れない

96分・35mm・白黒・1962年
監督 吉村公三郎
脚本 白井更生十若尾徳平
撮影 小原譲治
照明 木村辰五郎
美術 間野重雄
録音 西井憲一
音楽 團伊玖磨
編集 鈴木東陽
大映東京撮影所作品
出演 若尾文子 田宮二郎 川崎敏三 角梨枝子 江波杏子 中村伸郎

◎原爆記念号の取材のために、広島を訪れたジャーナリストは、街の復興に目を奪われ、雑誌の特集の意義を再考しようと思った。友人に誘われ、彼はクラブで美しいママと出会う。次第にふたりは心惹かれ、愛しあうようになるが、ある時、ママは決心してジャーナリストに自身の被爆経験を告白しながら体の痕をさらしていく。それは二人の永遠の別れのはじまりでもあった。健康美を誇るような田宮二郎の肉体と行き場のない悲しみを秘めた若尾文子の表情がみどころ。

## 愛と死の記録

92分・35mm・白黒・1966年
監督 蔵原惟緒
脚本 大橋喜一
撮影 姫田真佐久
照明 岩木保夫
美術 大鶴泰弘
録音 紅谷恒一
音楽 黛敏郎
編集 丹治睦夫
日活作品
出演 渡哲也 吉永小百合 青川いずみ 佐野浅夫 滝沢修 宇野重吉

◎広島の実器店で働く和江は印刷会社で働く幸夫と出会う。知り合いとなったふたりはデートを重ね結婚を約束するようになるのだが、幸夫に原爆病の兆候があらわれてきた。幸夫を励まし必死に看病する和江を周囲は結婚を諦めて別の人生を歩めと説くのだった。やがて若いふたりに突然の悲劇が訪れる。吉永小百合と渡哲也が初共演したことで話題作となった、リリカルな青春映画。この作品を最後に蔵原監督は日活を去った。

## この子を残して

128分・35mm・カラー・1983年
監督 木下恵介
原作 井藤 脚本 木下恵介+山田太一
撮影 岡崎宏三
照明 佐久間文彦
美術 芳野尹孝
特撮 成田亨
録音 島田満
音楽 木下忠司
編集 杉原よ志
松竹作品
出演 加藤剛 十朱幸代 大竹しのぶ 麻丘めぐみ 山口崇 炭島千景

◎『長崎の鐘』でも有名な放射線医師の永井隆の同名の手記を映画化することは木下監督の永年の希望であっ

た。ホームドラマを得意とする木下監督はキリスト教の教えに支えられた家族への深い愛情を加藤剛らに静かに演じさせる。峠三吉らの原爆の詩に作曲された音楽をバックにウルトラ・シリーズの怪獣デザインで著名な成田亨が手掛けた大掛かりなオープンセットと特撮を使つての浦上の被爆直後の地獄図の再現が木下作品には異質な凄みをもたらしている。

## ひろしま

104分・16mm・白黒・1953年
監督 関川秀雄
原作 長田新
脚本 八木保太郎
撮影 中尾駿一郎+浦島進
照明 伊藤一男
美術 平川透徹
録音 安恵重遠
音楽 伊福部昭
編集 河野秋和
独立プロダクション名作保存会配給
出演 岡田英次 月丘夢路 加藤嘉 山田五十鈴 原保美 河原崎し江
◎原爆投下から8年後。「いかにしてあの日を正確に再現するか」をテーマに日本教職員組合が子どもたちの手記をもとにした映画の製作を決定、全国でのカンパを募つての作品づくりとなった。広島市の中高生と教職員、一般市民ら85,000人が参加して被爆直後の人々の苦しみを

圧倒的な力で見せつけていく。物語はひとりの女子高校生が原爆が投下された朝から原爆症で苦しむこれまでの生活を思い出す形で進んでいく。

## 二十四時間の情事

原題 HIROSHIMA MON AMOUR
90分・35mm・白黒・1959年
監督 アラン・レネ
脚本 マルグリット・デュラス
撮影 サッシャ・ヴィエルニ+高橋通夫
美術 江坂実+ママーヨ+ペトリ
録音 ビエール・カルヴェ+山本三弥+ルネ・ルノー
音楽 ジョルジュ・ドルリュ
編集 アンリ・コルビ+ジャスマン・シャスネ+アンヌ・サロート
ザジフィルムズ配給
出演 エマニエル・ルリヴァ 岡田英次 ステラ・ダサス ビエール・バルポー ベルナール・ブレンソ

◎『夜と霧』(1956年)でユダヤ人収容所を描いたレネ監督が引き続き人類の負の遺産である原爆投下についてフランス人の視点でつづられた日本との合作作品。映画のロケに広島を訪れたフランス女優が日本人建築家と出会い情事を重ねる24時間の物語。男は被爆の、女はナチスの愛人としての心の傷を背負っている。女の「私は広島でも何もかも見たわ」という言葉に男は「君は何もみていない」と答える。ふたりの感情は交わることなく夜明けを迎える。

## TOMORROW 明日

105分・35mm・カラー・1988年
監督 黒木和雄
原作 井上光晴
脚本 黒木和雄+井上正子+竹内統一郎
撮影 鈴木達夫
照明 水野研一
美術 内藤昭
録音 井家真紀夫
音楽 松村禎三
編集 飯塚勝
アミック・エース配給
出演 桃井かおり 南果歩 仙頭敦子 黒田アーサー 佐野史郎 田中邦衛

◎1945年8月8日昼の長崎。次女の結婚式に集まってきた三浦家の人々が24時間後を迎える原爆投下までのわずかな人生の時間をそれぞれのエピソードを積み重ねて描いていく。長女の出産。新郎の

友人の捕虜収容所での苦惱。出征のために恋人と引き裂かれられる三女の悲しみ。夜明けとともに新しい命が生まれ、やがて明日を信じて生きていく人々に閃光がおそふ。井上光晴の小説をもとにした黒木監督の戦争レクイエム三部作の第1作。

## さくら隊散る

110分・35mm・カラー・1988年
監督+脚本 新藤兼人
原作 江津荻枝
撮影 三宅義行
照明 山下博美術 重田重盛
録音 永塚康弘
音楽 林光
編集 近藤光雄
近代映画協会配給
出演 吉田将士 未来貴子 八神康子 川島聡二 竹井三恵 乙羽信子

◎『原爆の子』(1953年)ではじめて原爆を描いた新藤監督が再び原爆に取り組んだ作品。広島原原爆投下で亡くなった移動劇団「櫻隊」の九人の役者と二人のスタッフについての物語。映画は再現されたドラマの部分と関係者の証言の部分から構成されている。被爆直後、5人は建物の下敷きになり死亡し、かろうじて生き残った4人も5人の後を追うように原爆症で亡くなっていった。井上ひさしの戯曲「紙屋町さくらホテル」のモデルとしても有名なエピソード。

## 黒い雨

123分・35mm・白黒・1989年
監督 今村昌平
原作 井伏鱒二
脚本 今村昌平+石堂淑朗
撮影 川又昂
照明 若木保夫
美術 福垣尚夫
録音 紅谷恒一
音楽 武満徹
編集 岡安肇
今村プロダクション配給
出演 田中好子 北村和夫 市原悦子 三木のり平 小沢昭一 大滝秀治

◎井伏鱒二の小説を正攻法で映画化した作品。直接被爆することはなかったが投下直後の黒い雨を浴びたことで人生が狂わされていく。その姪の末永い幸せを祈って生きていこうとする叔父夫婦。周囲の者たちとともに戦後の広島の人々の苦しみが描かれていく。田中好子の髪の毛が抜ける場面に残された人生の長さを知った悲しみと遣り切れなさが表出されている。今村監督は横川駅の被爆直後の情景や黒い雨が降りだす場面に粘り強い演出で臨んでいる。

## H story

111分・35mm・カラー・2001年
監督 諏訪敦彦
脚本 マルグリット・デュラス
撮影 カロリーヌ・シャンブリエ
照明 和田雄二
録音 菊池信之
音楽 鈴木治行
美術 林千奈
編集 諏訪敦彦+大重裕二
東京テアトル配給
出演 ペアリス・ダル 町田康 馬野裕朗 諏訪敦彦

◎1950年に広島で生まれた諏訪監督はレネ監督の『二十四時間の情事』をデュラスの脚本のままに再映画化しようと試みる。しかし出演者

は監督の演出意図が理解できず、やがて撮影が頓挫し中止となる。『H story』は<ヒロシマ・モナムール>『二十四時間の情事』の原題)をフランス人の撮影監督、フランス人の主演女優で同じ撮影現場をなぞりながらも全く別の物語へと変えていった。それは現代の映画がヒロシマを撮ることの困難さを暗示しているかのような印象を与える。

## 鏡の女たち

129分・35mm・カラー・2002年
監督 吉田喜重
撮影 中堀正夫
照明 佐野武治
美術 部谷京子
録音 横溝正俊
音楽 原田敏子
編集 吉田喜重+森下博昭
現代映画社配給
出演 岡田茉莉子 田中好子 一色紗央 山本未来 北村

有起哉 室田日出生 現代映画社配給

◎かねてから吉田監督は「原爆について描くことをみずから禁じてきました」と発言してきたが、14年ぶりに臨んだ新作は広島で被爆した初老の女性を中心とした三世代の母娘の物語であった。記憶を喪失した娘は母とともに生まれた場所、広島を再訪する。その場所で作られた娘の記憶は廻り失われた母との絆を取り戻していく。主演岡田茉莉子の堂々とした演技が圧倒的な説得力をもってふたりの女性の新しい人生をひびかせていく。

## 父と暮せば

99分・35mm・カラー・2004年
監督 黒木和雄
原作 井上ひさし
脚本 黒木和雄+井上眞也
撮影 鈴木達夫
照明 三上日出志
美術 木村威夫
録音 久保田幸雄
音楽 松村禎三
編集 奥原好幸
バル企画配給
出演 宮沢りえ 原田芳雄 浅野忠信

◎井上ひさしの同名の戯曲を映画化。全編がほとんど宮沢りえと原田芳雄のみで演じられる。黒木監督が取り組みつづけてきた戦争レクイエム三部作の完結編。広島原爆投下で亡くなった父親が幽霊になって娘に会いにやってきた目覚めの物語。娘は自分だけが生き残ったことに負い目を感じ幸せにしている。その想像に宇野重吉が語る被爆前、被爆後の人々のごとばと真実。投下翌月に撮影された日本ニュース社の映像は占領軍に持ち去られたが本作品でその内容を知ることができる。構成の松川八洲雄はドキュメンタリー映画の監督。広島原爆資料館で上映されつづけた貴重な作品。

## はだしのゲン

107分・16mm・カラー・1976年
監督 山田典吾
原作 中沢啓治
脚本 山田典吾
撮影 安承攻
音楽 渋谷毅
北星映画配給
出演 三國連太郎 左幸子 佐藤健太 石松宏和 石原千寿子 大泉滉

◎中沢啓治の世界的なベストセラーマンガの初の劇映画作品。1945年8月6日朝、ゲンは登校途中で原爆投下に遭う。運よく助かったゲンだったが変わり果てた広島の街や人々の姿に愕然とするのだった。原作に忠実な物語の展開。マンガのページから生き写しのゲンと両親の演技が悲惨な物語に優しさを添えていく。劇映画『はだしのゲン』3部作は、映画館での公開ではなく学校や公共ホールでの上映で多くの人々に鑑賞された作品。

## はだしのゲン

84分・16mm・カラー・1983年
監督 真崎守
原作 中沢啓治
脚本 中沢啓治
作画 富沢和雄
美術 男鹿和雄
撮影 川欽一
音響 明日川進
音楽 羽田健太郎
編集 尾形治敏
共同映画配給
声の出演 宮崎一史 甲田将樹 井上孝雄 島村佳恵 中野聖子 西村淳二

◎マンガの原作者、中沢啓治が自ら製作、脚本づくりに携わったアニメ映画。こだわったのはマンガや劇映画では表現しきれなかったアニメーションならではの表現だった。ベテラン監督の真崎守が、後にスタジオジブリで美術を担当する男鹿和雄らによって丁寧に描き込まれた広島街並みを背景に元気に暴れまわるゲンや仲間たちを生き生きと描写していく。とりわけ被爆した人々の描写は原作者の執念を感じる場面となった。制作はマッドハウスが担当した。

### ふたりのイーダ

110分・16mm・カラー・1976年
監督 松山善三
原作 松谷みよ子
脚本 松山善三
脚本協力 山田洋次
撮影 中川芳久
照明 石井長四郎
美術 村木忍
録音 渡会伸
音楽 木下忠司
編集 井村文子
翼プロダクション配給
出演 倍賞千恵子 上屋健一 原口祐子 森繁久彌 高峰秀子 宇野重吉

◎童話作家の松谷みよ子の同名のファンタジー小説を映画化。山田洋次が脚本協力し、いわさきちひろのイラストがタイトルバックで使用されている。夏休みに広島田舎町を訪れた兄妹が、歩きながら「言葉を少す椅子」と出会う。椅子は何年もの間、原爆で亡くなった少女、イーダを待ち続けていたのだった。宇野重吉が演じる椅子の声とシュールな動きが秀逸な作品。学校や地域のホールで上映されつづけ。鑑賞者の数がとくに多い非劇場作品の代表作。

## ヒロシマ・原爆の記録

30分・Blu-ray・カラー・白黒・1970年
共同構成 小笠原基生+松川八洲雄
スタッフ 杉崎理+外山透+武田幹夫+福田誠+望月忠雄+八巻英輔
音楽 間宮芳生
企画監修 広島原爆映画製作委員会
日映映像配給
語り手 宇野重吉

◎原爆投下から25年後、広島市の市民の参加と支持のもとに作られたドキュメンタリー作品。原爆症とは何か、原爆とは何かを日本人が撮影した原爆記念館の遺品や市内の遺構、写真から構成されている。その映像に宇野重吉が語る被爆前、被爆後の人々のごとばと真実。投下翌月に撮影された日本ニュース社の映像は占領軍に持ち去られたが本作品でその内容を知ることができる。構成の松川八洲雄はドキュメンタリー映画の監督。広島原爆資料館で上映されつづけた貴重な作品。

## 予言

41分・DVD・カラー・1983年
監督 羽仁達
脚本 羽仁達
撮影 奥村祐治
照明 五十畑憲一
録音 岡本光司
音楽 武満徹
編集 崎崎桃子
平和博物館を創る会配給
語り 鈴木瑞穂 大平透

◎1980年夏、アメリカ国立公文書館に眠っている米軍が撮影した被爆直後の広島・長崎のカラーフィルムをカンパで10フィートずつ買い戻そうという

市民運動がおこった。その集められたフィルムから反核・平和の記録映画3部作として製作された作品のひとつ。歴史的資料映像と現在の映像を加えて被爆直後と冷戦下の核狂乱時代に暮らす被爆者の姿を追った本作は問題を提起する形でエンドマークを出さずに終わる。羽仁監督は記録映画保存センターの会長を務めている。

## 原爆の図

17分・16mm・白黒・1953年
監督 今井正+青山通春
撮影 浦島進
照明 伊藤一男
録音 空閑昌敏
音楽 大木正夫
解説 赤木蘭子
原爆の図 丸木美術館配給

◎タイトルに「丸木位里・赤松俊子作 原爆の図」とあるように丸木位里・俊のふたりの視線で語られる『原爆の図』の制作への意気込みと全国を巡回していく展覧会の様子を記録した短編。監督は『純愛物語』を演出した今井正。連作となっていく「原爆の図」の第一部「幽霊」から第五部「少年少女」までのふたりの創作の鬼気迫る制作の

現場と絵画の細部、展覧会を訪れた人々の表情と反響を当時の空気感とともに丁寧に記録された作品。

## 原爆の図

27分・35mm・白黒・1967年
映画「原爆の図」製作集団(監督 宮島義勇)
朗読 山本圭

◎丸木位里と俊が描いた「原爆の図」をひたすら撮影した作品。クレジットには個人名はなく、製作者集団とのみ表記されている。カメラは絵画の細部をくまなく映し出す。人々の阿鼻叫喚

の表情とすべてのものを焼き尽くす炎。キャンパスのなかの物を言わない人々の代わりに峠三吉の『原爆詩集』を山本圭が朗読するだけでそれ以外のナレーションも文字説明もはいらないストイックなアートフィルム。監督を務めた宮島義勇は日本映画黄金期を支えた大カメラマン。

## ピカドン

9分・35mm・カラー・1978年
木下蓮三・木下小夜子作品
音楽 小六禮次郎
音楽 福田隆義
◎セリフもナレーション

もまったく使わずに1945年8月6日の朝の広島を描く、9分間に凝縮された平凡な人々の生と死。短編アニメーションの傑作。原爆投下直後の街と人間にかかわれていくさまが核兵器の非人間性とともにリアルに訴えかけてくる。

## おこりじそう

27分・16mm・カラー・1983年
監督 坂谷紀之+河野秋和
原作 山口勇子
脚本 坂谷紀之
人形:小室一郎
撮影 田村実照明 平田光治
美術 野呂真一+桜井勝義
音楽 木下忠司
翼プロダクション配給
声の出演 佐々木愛 鈴木瑞穂 関かおり 中村啓子

◎自身も被爆体験のある山口勇子の絵本を見童むけの人形アニメーションにしました。いつもは笑っているお地藏さんと8月6日に6歳になるひろちゃんは仲良しです。被

爆してやけどを負ったひろちゃんはお地藏さんに水を求めます。お地藏さんは怒った顔になり目から涙がふふれました。その涙はひろちゃんの口へと流れていきます。やがてひろちゃんは息をひきとり、お地藏さんも崩れていきました。

## ながさきの子うま

27分・16mm・カラー・1989年
監督 河野秋和
原作 大川悦生
音楽 木下忠司
翼プロダクション配給
声の出演 湯澤真伍 小沢かおる 坂根慶祐 押谷芽衣 中村啓子

◎『おこりじそう』のスタッフが長崎を舞台にした児童向け人形アニメーションを作りました。1945年の春、浦上天主堂の鐘の音が聞こえる農家の庭先で子うまが生まれました。子うまは、農家の秀男とやす子、カラスやヤキと仲良く暮らしていましたが、やがて運命の日がやってきて馬小屋の下敷きになってしまいます。子うまを必死で助けた母うまも瀕死の重傷を負いました。母うまの体が少しづつふくれあがってきます。

『純愛物語』◎東映 『その夜は忘れない』◎KADOKAWA 1962 『愛と死の記録』◎日活 『この子を残して』◎1983 松竹/ホリプロ 『ひろしま』◎独立プロ名画保存会 『二十四時間の情事』◎1958 ARGOS FILMS 『TOMORROW 明日』写真提供:アズミック・エース 『さくら隊散る』◎近代映画協会 『黒い雨』◎今村プロダクション/林原グループ 『鏡の女たち』◎現代映画社 『父と暮せば』◎2003 『父と暮せば』リターンズ 『はだしのゲン』◎北星 『はだしのゲン』◎ケンプロダクション 『ふたりのイーダ』◎翼プロダクション 『ヒロシマ・原爆の記録』◎日映映像 『予言』◎平和博物館を創る会 『原爆の図』◎原爆の図 丸木美術館 『原爆の圖』◎原爆の図 丸木美術館 『ピカドン』◎STUDIO LOTUS 『おこりじぞう』◎翼プロダクション 『ながさきの子うま』◎翼プロダクション